

第一部【企業情報】

航空宇宙事業

連結受注高は、防衛省向けやボーイング社向け777・787航空機分担製造品の受注が増加したことなどにより、前年同期比242億円増の1,383億円となりました。

連結売上高は、C-2輸送機等の防衛省向けが増加したことに加えて、ボーイング社向け777・787航空機分担製造品が増加したことなどにより、前年同期比272億円増の1,658億円と大幅な増収となりました。

営業利益は、売上の増加やコスト削減などにより、前年同期から34億円増益の93億円となりました。

ガスタービン・機械事業

連結受注高は、航空機用エンジン分担製造品などの増加により、83億円増の1,316億円となりました。

連結売上高は、陸用タービン設備などが減少したものの、産業用ガスタービンやガスエンジンなどの増加により、前年同期比167億円増の1,788億円となりました。

営業利益は、研究開発費の増加などにより前年同期比33億円減益の46億円となりました。

プラント・環境事業

連結受注高は、イクシスLNGプロジェクト向け低温タンクなどを受注したものの、国内のLNG貯槽案件やごみ焼却プラントの減少などにより、前年同期比145億円減の694億円となりました。

連結売上高は、LNG貯槽案件が引き続き高水準で推移するとともに、搬送設備・ごみ焼却プラントなどで増加したものの、海外向け大型案件が減少したことにより、前年同期から76億円減収の711億円となりました。

営業利益は、売上の減少および利益率の低下により、前年同期比51億円減益の37億円となりました。

モーターサイクル&エンジン事業

連結売上高は、欧州向け二輪車販売が減少する一方、米国向けやインドネシアを中心とする新興国向け二輪車の増加などにより、前年同期比45億円増収の1,588億円となりました。

営業損益は、売上の増加および収益性の向上等により前年同期比25億円改善し、20億円の営業損失となりました。

精密機械事業

連結受注高は、中国向けを中心とする新興国建機市場向け油圧機器の減少などにより、前年同期比527億円減の784億円と大幅に減少しました。

(7)【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、当社として把握することができないため、
記誌

2【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しています。

2 監査証明について





E02127)

E02127)

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

